

私 たち 地 域 お こ し 協 力 隊 で す !

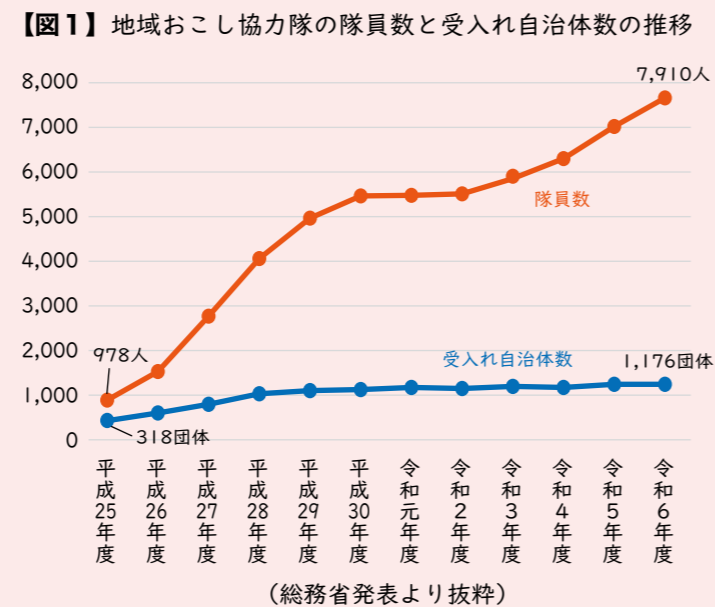


町地域おこし協力隊として活動を続けていた佐藤浩二さんが、3月をもって退任します。佐藤さんの3年間のあゆみとともに、着任から1年を迎える悪原蒼太さんや地域おこし協力隊の概要について紹介します。
▼問い合わせ/舟形町まちづくり課地域支援係 ☎(32)0104

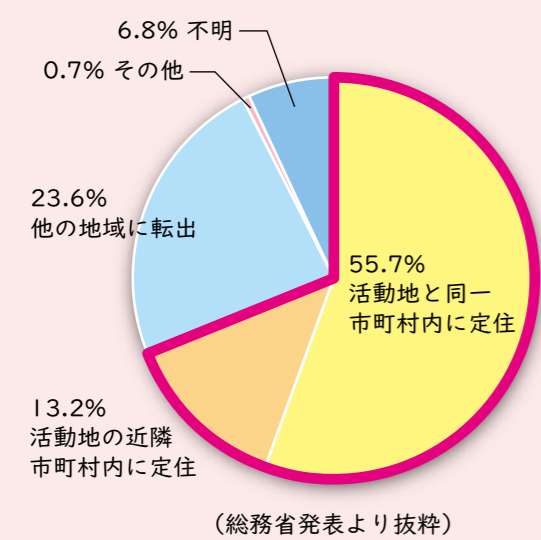
地域おこし協力隊とは

都市地域から過疎地域などに住民票を異動し、地域おこし支援や農林水産業への従事など「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住や定着を図る仕組みです。任期は原則として最長3年です。

総務省の発表によると、全国の地域おこし協力隊の隊員数は7,910人、受入れ自治体数は1,176団体と、平成25年から11年で隊員数は約8倍、受入れ自治体数は約3.5倍と、地域おこし協力隊の活動が広がっています。【図1】
地域おこし協力隊の主な活動は、任期中に実際に移住して暮らしながら、地域への協力活動を行うことです。例えば、地域ブランドや地場商品の開発、地域の魅力のPR、農業など一次産業への従事、地域住民の支援などがあり、地域の実情に合わせた課題解決の取り組みが行われています。



【図2】 地域おこし協力隊の任期終了後の隊員の動向



地域おこし協力隊の任期が終了した後の隊員の居住状況について、総務省の発表によると活動地と同一市町村または近隣市町村に定住した隊員は合わせて68.9%であり、活動をとおして地域へ定住・定着する方が多くいることがわかります。【図2】
また、任期が終了した後の隊員の動向について、総務省の発表では「起業」が約46%、「就業」が約34%と全体の80%以上を占めており、次いで就農や事業継承が多くなっています。町でも、地域おこし協力隊の任期終了後に役場に入庁したり観光業に携わったり、定住人口・関係人口として町と関わっている方がいます。

悪原隊員に聞きました ~1年間を振り返って~



今年度は、3年後の具体的な就農計画と品目選定をしたいと考え、町で栽培されている野菜や山菜の栽培管理を体験しました。実際に作業を体験してみて、それぞれの品目の作型や管理方法を知ることができただけでなく、生産者の方々から、農業経営を安定させるための助言をいただいて、「就農」という目標に向けて大きく近づいた1年間となりました。

今年1年間 こんなことに 取り組みました



来年度はどんなことに挑戦したいですか

今年度の活動を踏まえて、きゅうりで就農をしたいと考えました。きゅうりを選定した理由としては、初期投資が他の品目に比べ少ないことや栽培初年度から所得を得ることができるためです。4月から新規就農支援研修に参加し、きゅうりの栽培技術や機械操作などの実践的な作業を行い、就農の準備を進めます。
また、今年度で作成したくるみ豆と青黒のマニュアルを活用し、最上伝承野菜の生産振興などに貢献できるよう、町民の方々との交流を積極的に行いたいです。

悪原 蒼太

